

市町村指定文化財取材票 《表》					
取材日	2024 年	4 月	23 日	(記入者) 宮本正博	
取材参加者	石井	井本	中川	西田	宮本
	本井	横山			
取材対象先	奈良市：真福寺の木造地藏菩薩立像				

所在地	奈良市月ヶ瀬尾山2248		
所有者（取材 対応者）名	真福寺 * * * 住職 （個人情報守秘）		連絡先 0743-92-0434
			PCアドレス
取材申込	申込先・行政名など：真福寺 * * * 住職		
市町村 指定文化財	彫刻 1 軀	木造地藏菩薩立像【1980(昭和55)年12月1日 旧月ヶ瀬村指定】	
	建造物 棟	名称（指定年月日）	
文化財指定理由	本尊は像高約90cmで一木造り、平安時代後期（藤原時代）の作、奈良風を取り入れた定朝様式で秀作である。元は金帛で塗られ台や光背は江戸時代補作。		

文化財の状況		
防火対策	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
	境内に消火栓や防火水槽が備え付けられている。尾山では住職も所属する消防団が毎月1回消防訓練を行いポンプの調子などを調べている。この地区では小型のポンプ車が1台ある。	住職は火には特に注意を払っている。かつて山火事や家の火事があったとき、夜を徹して消火活動に出動している。
獣害対策	被害の有無、対策など	記入者の感想
	夜イノシシが来て近所の畑を荒らすこともあるが、寺は直接は被害を受けていない。	まだ寺も築25年ほどで、動物などが天井や床下に入り込めなくなっている。
保存～継承へ 苦労と今後の課題と対策	現住職は1178(治承2)年の創建から記録では16代目（中断有）中興の祖父から3代目に当たる。現在 尾山の戸数90軒の内檀家は60軒で支えられているが、若い人が少なくなり将来的な不安を抱えている。修理や建て替えに行政による財政的な支援はなく檀家によって支えられている。先代の努力や檀家の支えにより1997(平成9)年に本堂が再建された。山の上にある寺なので吹き上がる風雨が強く横面にあたり、木戸に雨水のしみ込みがひどくそれを防止するためシャッターを取り付けた修理の苦労話をされた。お子様には継いでくれることを希望されている。	
取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題（修復、維持、管理、環境など）		
住職は、父親が引退された後若くして寺を継がれた。月ヶ瀬に愛着を持ち意欲的に地域活動に参加し消防団員として地域の消火活動や防災の取り組みにも積極的に参加されている。子供たちの遊び場の整備活動を手がけるなど地域に溶け込み、仕事では地区の複数の寺の兼務住職となり法要などにも対応されている。お寺の整備や維持管理が檀家数の減少するなかで皆の負担が増えることを懸念されている。庭や寺の管理は前住職や夫婦で協力してされている。		

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024 年	4 月	23 日	(記入者) 宮本正博	
取材参加者	石井	井本	中川	西田	宮本
	本井	横山			
取材対象先	奈良市：真福寺の木造地藏菩薩立像				

* 写真撮影許可済

文化財指定名 木造地藏菩薩立像

文化財（正面写真）	文化財（衣紋・角度を変えた本尊）
	 
文化財（安置状態の全体写真）	真福寺本堂写真
	
文化財の由緒	地域の歴史や寺の特徴等
この木造地藏菩薩立像は尾勝山真福寺の本尊で、方形造りの厨子に安置されている。像高90cmの一木造り、平安時代後期（藤原時代）の作、奈良風を取り入れた定朝様式が感じられる秀作である。元は金帛(キンパウ)で塗られていたようで、台や光背は江戸時代に補作され、今は全体が塗り替えられている。厨子は桃山様式を伝えるもので、江戸時代初期の作と推定される。説明板あり。	古義真言宗、山添村春日の不動院の末派。鎌倉初期に菅原道真を天神社に祀る際、道真の好んだ梅が植樹され、それが現在の月ヶ瀬梅林になった。1331(元弘元)年、元弘の変で敗退した後醍醐天皇が撤退する折、この地に難を避け立ち寄った。一人の女官が烏梅(カハ)の製法を伝授したと伝説が残る。真福寺は平安時代1178(治承2)年に創建されたと伝えられている。本堂は1844(弘化元)年に建立された規模の大きな三間堂で、柱は面取りの方柱を用い、当時は草葺であったが、1920(大正9)年に瓦葺きにした。境内には石造五輪塔が多数散在する。その中には室町後期のものもある。境内には6体の地藏と2基の地藏石がある。(月ヶ瀬村村史参照)